

- ◆ 日 時: 2013 年 4 月 26 日(金) 18:00-20:00 場 所: 神奈川大学 1 号館 301 号室
- ◆ 主 催: 防災塾・だるま 司 会: 山田(美)さん
- ◆ 談義の会参加者: 会員 28 名 一般 9 名 計 37 名 (敬称略)
 - (会員) 池田、伊東、荏本、小原、菊地、窪田、小菅、高松、田中(伸)、中島、山口(昭)、山口(章)、白田、田中(喜)、中村(茂)、山田(美)、長沼、成松、田中(晃)、渡辺(巧)、宮川、高江須、佐々木、鈴木、石井(栄)、石井(邦)、磯野、新井田。
 - (一般) 小林、大坪、山崎、和泉、日守、野波、大村、岩楯、渡辺。

I. 「防災塾・だるま」活動概況

1. 総会報告(荏本塾長)

総会での荏本塾長あいさつ

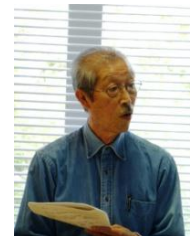


総会議長: 山口(章)さん
参加者からの意見・質問を大切に、参加型の総会にしましょう。

- ◆ 本日午後の総会で、平成24年度の活動・決算報告と平成25年度の活動計画・予算案が審議され承認された。また、賛助会員制度導入に伴う規約改正と役員改選についても提案通り承認された。新年度を迎えて、みなさんと協力し一層活動を充実していきたい。(総会参加者: 会員 27 名 一般3名 計30名)
- ◆ 神奈川大学は、平成27年度設立を目指して、地域と一体となって災害に備えるための防災・減災研究拠点「防災センター」の検討を進めており、防災塾・だるまの役割も期待されている。

2. 平成 25 年度活動計画について(中島さん)

- ◆ 定例会、談義の会、実践講座、首都圏の減災を考える会などの事業内容を充実し、運営の効率化もはかる。(5月から例会の時間割が変更となります!)
- ◆ 地域貢献事業では、地域防災・学校防災への協力講座などの新しい事業についてテーマ毎に委員会を組織して取組んでいく。防災教育資料の編集・管理も進める。
- ◆ 防災・減災に関する意見提案についても引き続き取組んでいく。



定例会司会: 高松さん
新年度を迎えて、様々な委員会や活動がスタートします。会員のみなさん、参加して役割を担ってください!

II. 定例会報告・だるま活動情報(高松さん)

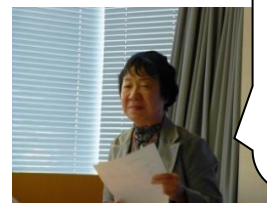
定例会参加者: 会員27名 一般3名 計30名

相模原市「さがみはら防災スクール」(加藤さん)

- ◆ 今秋から地域防災リーダー育成講座「さがみはら防災スクール」を開設し、防災士の資格取得(「防災マイスター」の称号付与)を支援する。

神奈川建築士会女性委員会ワークショップ(白田さん)

- ◆ 女性委員会・だるま共催で 7/20(土)にワークショップ「防災・減災を考えよう~HUG から学ぶ」を開催する。(建築士会防災委員会も共催予定)
- ◆ 先立って、ファシリテーター養成講座(5/9)、福祉避難所等の学習会(6/6)を実施する。



港中学校:平成 25 年度防災教室(高松さん)

- 方向性がまとまった。近々支援活動を開始する。
- ◆ 地域のマップ作りから地域の危険を知る。
- ◆ 職員への研修会(第 1 学期 講師: だるま)
 - 生徒への学習会(夏休みはじめ、地区ごとに)
 - (夏休み: 生徒によるマップ作成)
 - 生徒による発表会(夏休み明け)

III. 防災まちづくり談義（「3.11 被災地をめぐる II 女川・石巻」報告会）

テーマ：東日本大震災から2年 被災地の今と声を地域に伝えよう ～明日の震災を生き抜くために～

- ・経緯：「被災地を巡る I(2012.3)」で行けなかった女川・石巻の訪問。
- ・参加者：21名 日程：3月24日(日)～26日(火)
- ・幹事：山田(美)・田中(喜)・田中(晃)さん 協力：「まみおの会」
- ・訪問先：現地の方々とさまざまな交流をすることができました。
(女川) 女川商店街復興祭、きぼうの鐘商店街、うみねこハウス、
門脇小学校、大川小学校、旧町立病院、阿部養建設など。
(石巻) 石巻社協、石巻ニューズ(石巻日日新聞)、石巻観光協会など。

総合司会：

山田(美)さん



幹事の田中(喜)さん(右)・田中(晃)さん(左)

(皆さんの報告を報告書にまとめる予定)



～交流を通じて見たこと、感じたこと～

- ◆町おこしや産業復興に頑張っている方々、支援する様々な人たち・団体、高齢化する仮設住宅を「みまもる」人たち、みなさんからたくさんのことを学んだ。
- ◆寒さ、食料もない、空き地に寄り添い、分担を決めて支え合うことから始まった避難生活。新聞社は手書きで翌日から再開。災害エフエムは仮設放送局から。みんなが頑張った。自分たちの震災への備えはできているのか、改めて考えさせられるツアーだった。
- ◆「子供たちの命を守る」をテーマに参加。震災時に何ができるか、小学校との交流を通じて学び、考えた。
- ◆復興には時間がかかる。住民の意見を反映するプロセスと自立に向けて支援する社会的仕組みをつくる時期に来ている。
- ◆復興には解決しなければならない課題が残っている。地積調査などの難しい課題にも行政として目を向ける時期に来ている。

荏本塾長：現地で見たこと聞いた声を自分たちに結びつけて考え、今後の行動に生かしていきましょう。



幹事の皆さん、協力いただいた「まみおの会」の皆さん、ありがとうございました！

以上。

(資料：池田・伊東・片山・田中(喜)・山田(美)・田中(晃)・成松 レポート作成：成松)

だるま 5 月定例会 & 第 96 回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成 25 年 5 月

- ◆ 日 時: 2013 年 5 月 24 日(金) 18:00-19:30 場 所: 神奈川大学 16 号館視聴覚室 B
- ◆ 主 催: 防災塾・だるま 司 会: 高松さん 記録: 中島光明
- ◆ 談義の会参加者: 会員 34 名 一般 22 名 計 56 名 (敬称略)

(会員) 池田、伊東、荏本、勝田、菊地、窪田、高松、中島、中村(俊)、山口(昭)、白田、田中(喜)、常光、中村(茂)、山田(美)、長沼、片山、田中(晃)、渡辺(善)、宮川、上野、玉井、樋口、佐々木、吉沢、後藤、鈴木、小早川、石井(邦)、松井、河野、磯野、新井田、岩楯。

(一般) 田中、早川、小坂、不破、伊東、小嶋、下田、仲本、内田、菅野、山縣、浜木、鴻谷、濱野、松山、大野、勅使川原、叶野、源波、下村、湯浅、大森。



池田さん(副塾長)

I. 定例会・だるま活動の情報(司会: 山口章さん)

<定例会参加者: 会員17名>

1. 主催事業報告

1) 実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

- ・25 年度講座運営委員会を発足
- ・委員 16 名、リーダー: 伊東さん

2) だるま HP の活用

だるま活動及びだるま会員の多彩な情報を掲載しています。積極的にご活用ください。

3) 8 周年記念イベント・・・企画検討を行います。

4) 「被災地を巡るⅡ」レポート

- ・担当: 山田(美)さん、田中(喜)さん
- ・報告書作成中、6 月定例会の有償配布を予定。

5) 発災直後の行動ゲーム「J-DAG」の紹介

製作: 片山さん、6 月談義の会で紹介します。

<養成講座運営委員会の検討>

メインテーマ: 地域にいかす「防災・減災の知識・知恵」を学ぶ

- ◆ 目指すもの 防災減災活動の人材を育成
- ◆ 内容 講演・体験と意見交換
- ◆ 開催回数 全 6 回(前年 10 回)
- ◆ 開催日 毎週木曜日(10/24~11/28)
- ◆ 講座時間 3 時間半(前年 2 時間/回)



2. 協力参加活動報告

1) 港中学校: 平成 25 年度防災教室(高松さん)

方向性が決定、6/21(金) だるま・学校との詳細打合せ

- ◆ 地域のマップ作りから地域の危険を知る。
- ◆ 職員への研修会、生徒への学習会、生徒による発表会

2) 神奈川建築士会女性委員会ワークショップ(白田さん)

- ◆ 女性委員会・だるま共催で 7/20(土)に「避難所に関する WS~HUG から学ぶ」開催。(建築士会防災委員会共催)
- ◆ 先立って、福祉避難所等の学習会(6/6)を実施。

3) 市民フォーラム横浜(5/11)

住宅開発団地の盛土地盤の調査

4) 災害時要援護者支援事業(5/14)

緑区白山地区の紹介(山口章さん)

5) 自治体総合フェア(5/17)

効果的な防災教育のすすめ

6) J-DAG 勉強会(5/20)

磯子区屏風ヶ浦ケアプラ(片山さん)

II. 第 96 回防災まちづくり談義の会・・・司会：高松さん

テーマ：横浜市防災計画「震災対策編」2013 及び 横浜市地震防災戦略について

講師：小野寺 勝氏（横浜市総務局危機対処計画課長）



● 横浜市防災計画「震災対策編」2013

荏本塾長あいさつ

修正の基本的な考え方：「減災」と「人命を守ることを最優先とする対策の強化」



講師：小野寺氏

修正の主なポイント

- ① 地震想定被害の見直し
- ② 自信に強い都市・人づくりの推進
- ③ 災害対応力の強化
- ④ 被災者等支援の充実
- ⑤ 復旧復興の体制・方針等の明確化
- ⑥ 他都市応援要領の明確化

☆概要版（21 ページもの）を作成し、
本年 6 月下旬以降全市自治会長に配布される。

● よこはま地震防災市民憲章 ～私たちの命は私たちが守る～

- ★私は自分に問いかける。地震への備えは十分だろうか。
- ★私は考える。今、地震が起きたら、どう行動しようかと。
- ★私は自分に言い聞かせる。周りのためにできることが私にも必ずあると。
- ★私は次世代に伝える。自助・共助の大切さを。



● 横浜市地震防災戦略

目的：想定被害を軽減するための減災目標を設定し、必要な対策を実施していくために策定

本篇：HP に掲載（抜粋版は掲載しない）・・・平成 25 年 4 月策定



基本的事項

対象地震＝地震：元禄型関東地震、津波：慶長型地震

対象期間＝平成 25 年～平成 34 年（10 年間）

目標を達成するための施策、行動計画

- ・被害を最小限度に抑える（死者数、避難者数、建築被害棟数）
- ・発災時の混乱を抑え、市民の命を守る（帰宅困難者など 3 項目）
- ・被災者の支援と早期復興を図る（早期生活支援など 3 項目）

～講演を聴収して、感じたこと～

◆行政の限界を記述したこと。

- ・大地震が発生したとき、行政からの支援はすぐには届かない。
- ・大地震を乗り越えるために、一人ひとりの備えと地域の絆が不可欠と。

◆市民力の発揮について、より具体的な記述をしたこと。

※ 膨大な内容を限られた時間で解説いただき、有難うございました。
改めて講師の小野寺さんに敬意を評します。

第 97 回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成 25 年 6 月

- ◆日 時: 2013 年 6 月 28 日(金) 18:00-19:30 場 所: 神奈川大学 16 号館 視聴覚 B
- ◆主 催: 防災塾・だるま 司 会: 山口(昭)さん
- ◆談義の会参加者: 会員 30名 一般 9名 計 39名 (敬称略)
- (会員) 池田、伊東、荏本、小原、菊地、窪田、高松、中島、山口(昭)、山口(章)、白田、杉原、田中(喜)、山田(美)、長沼、片山、成松、田中(晃)、玉井、加藤、高江須、佐々木、山田(富)、鈴木、小早川、石井(邦)、松井、磯野、小嶋、新井田。
- (一般) 本橋、森(俊)、増田、溜廣、豊崎、湯浅、坪井、平井、下村。

I. 「防災塾・だるま」活動概況

1. 地域の防災講座・防災教育への支援(荏本塾長)

◇活動が広がってきた。振返りをしっかり行いながら進め、内容・教材も体系的に開発していきたい。

2. 第 8 回実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座(運営委員会リーダー 伊東さん)

◇2013 秋の講座の企画が固まり、役員会の承認を得て 6/7 に神奈川大学に提出した。

◇「自分達の町は、自分達で守る」防災・減災活動に貢献できる人材の育成を目指す。

メインテーマ: 地域にいかす「防災・減災の知識・知恵」を学ぶ

期間: 10/24(木)～11/28(木) 毎週木曜日 13:30～17:00(全 6 回) 受講費用: 5,000 円

会場: KU ホールスクエア(みなとみらいウイングスタワー 14F)(第 5 回 11/21 のみ横浜市民防災センター)

3. 「被災地を巡る Part2(石巻・女川編)」報告書完成(田中(喜)・山田(美)さん)

◇「東日本大震災から 2 年 被災地の今と声を地域に伝えよう」をテーマに参加者の

レポート集・冊子が完成した。有償配布: 300 円。関係者の尽力に感謝。



II. 定例会報告・だるま活動情報(白田さん)

定例会参加者: 会員 26 名 一般 2 名 計 28 名

港中学校防災教室「防災マップづくり」(高松さん)

◆H25 年度防災教室は、全学年を対象に登下校の「防災マップづくり」を行うことになり、防災塾・だるまが支援する。

7/17(水): 「マップづくり」学習

(講師: だるま 森さん)

夏休み: まちあるきとマップづくり

第 2 学期: 防災マップのまとめと発表会



戸塚区公立中学研究会「学校における安全管理」への協力(高松さん・池田さん・宮川さん)

◆鈴木戸塚中学副校長(前港中学副校長)からの依頼で、戸塚区内全 9 校 27 名の教職員によるクロスロード(7/3)を支援。

大井町/地域防災活動リーダー養成講座

～6/29(土) 大井町公民館～ (山田(富)さん)

◆テーマ(講師: 荏本塾長):

①3.11 東日本大震災から学ぶ

②大井町の地域特性～地震災害リスクを認識する

③地域防災活動リーダーの使命～自助・共助

神奈川建築士会女性委員会への支援(白田さん)

◆7/20(土)にワークショップ「防災・減災を考えよう～HUG から学ぶ」を開催する。(「女性委員会+防災委員会」とだるまの共催となった)

◆先立って、HUG ファシリテーター養成の学習会を 5/9(木)に実施した。

ゲームの進行はブロックに分かれた参加者の
臨機応変な判断・行動に任せる。

III. 防災まちづくり談義

テーマ：J-DAG（発災直後の行動ゲーム）

講師：片山 晋さん（防災を考える会・磯子代表、だるま会員）



片山さん：
いざ発災時には、その直後の適切な
判断と行動の良し悪しが大き
な被害の違いとなる。



デテコ舞いの対策本部

◆J-DAG(Just-Disaster Action Game)：

発災後1時間に起こる様々な事態を想定し、地域でいかに
対処行動をするかをリアルタイム(1時間)で体験するゲーム。

◆ゲーム後の反省が大切！

実際の災害では何が起こるかわからない。混乱が起きる
中では臨機応変の対応が大切で、正解はない。

ゲームが終わったらしっかりと反省する。訓練での
混乱や失敗から学び、問題点を洗い出してください。

一時避難場所・備蓄庫では？



山口(昭)さん：
ブロック内の役割分担は？



荏本塾長：

◆発災直後の判断・行動が命を守る鍵を握る。

◆J-DAG は、片山さんが中心となって開発し、防災塾・だるまが監修した。
今回のような訓練を積み重ね、広めることが地域の減災につながる。

以上。

(資料：池田・伊東・田中(喜)・成松 報告書協力：片山ほか レポート作成：成松)

第 98 回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成 25 年 7 月

: 2013 年 7 月 26 日(金) 18:00-19:30 場 所: 神奈川大学 18 号館 11 号室

◆ 主 催: 防災塾・だるま 司 会: 片山さん

◆ 談義の会参加者: 会員 27 名 一般 12 名 計 39 名 (敬称略)

(会員) 池田、伊東、荏本、菊地、窪田、小菅、高松、中島、山口(昭)、杉原、田中(喜)、中村(茂)、山田(美)、長沼、片山、成松、宮川、玉井、樋口、佐々木、後藤、鈴木、松井、福島、磯野、新井田、小嶋。

(一般) 松田、^{あべき}楠木、下田、湯浅、太田、^{まかく}馬赫、萬年、里村、金、下村、若林、堀。

I. 「防災塾・だるま」活動概況

1. 活動の夏・勉強の夏(荏本塾長)

◇地域の防災講座・防災教育支援:「継続的な取り組みを!」の呼びかけに応じてくれる支援先が増えてきている。

◇8 周年記念事業:今年についても土木学会と意見交換を始めた。だるま会員の地域での活動に根差したテーマで、という方向性。

2. 第 8 回実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座(運営委員会リーダー 伊東さん)

◇2013 秋の講座企画が確定し、本格的準備を開始。今年は特に受講者の参加・発言の機会を増やした。準備～運営でみなさんの支援が必要。積極的に役割を担っていただきたい。

メインテーマ:地域にいかす「防災・減災の知識・知恵」を学ぶ

期間:10/24(木)～11/28(木) 毎週木曜日 13:30～17:00(全 6 回) 受講費用:5,000 円

会場:KU ホールスクエア(みなとみらいウインズタワー 14F)(第 5 回 11/21 のみ横浜市民防災センター)

3. 関東大震災 90 周年(池田さん)

◇展示・講演会など記念イベント多数(詳細は P.3 参考情報ご参照)、関東大震災から学ぶ有益な機会。

II. 定例会報告 (定例会参加者:会員 21 名 一般 1 名 計 22 名)

神奈川建築士会(女性委員会・防災委員会)への支援(白田さん)

- ◆7/20(土)にテーマ「防災・減災を考えよう～HUG から学ぶ」でワークショップ開催。参加者約 40 名。講義(講師:白田さん・中村(俊)さん)に熱心に耳を傾け、避難所運営ゲーム HUG ではグループに分かれて次々を起こる状況・問題を疑似体験。
- ◆グループ発表と講評(荏本塾長)では、災害をイメージする大切さ、継続的取り組みの重要性などを共有した。

港中学校防災教室「防災マップづくり」(高松さん)

- ◆7/17(水)に全学年で「防災マップづくり」授業を実施。だるまは講師(森さん)と各クラスのサポートで支援。生徒たちとマップづくりの目的(命を守る)を共有し、作り方と注意事項を解説した。(夏休みの宿題)
 - ◆9 月に各クラスで生徒たちが持ち寄りまとめる。その成果・課題を見て、その後の展開に生かす。
- pg. 7



ワニニュース磯子版「防災コラム」(片山さん)

- ◆防災コラム「“いざ”に備えて」を連載開始。(7 月末日号から 12 回・1 年)

- ◆地域での取り組みとして、「防災を考える会・磯子」のメンバーが分担し、だるま会員の片山・山口(昭)・玉井さんが寄稿。



戸塚区公立中学研究会「学校における安全管理」(高松さん)

- ◆7/3 に 9 校から教職員 27 名が参加してクロスロードを実施。だるまは講師(加藤さん)と運営で支援。
- ◆参加した先生方から「防災減災への当事者意識が高まり、真剣に考える機会となった!」との声が届いた。

☆**深部探査船って何だ？防災・減災にどう役立つの？**
木戸講師のユーモアを交えて軽快に進むわかりやすい
解説とスライドに、参加者全員ドンドン引込まれた。

III. 防災まちづくり談義 （司会：片山さん）

テーマ：地球深部探査船「ちきゅう」よって得られた科学成果の紹介

講師：海洋開発研究機構 木戸ゆかり氏（地球深部探査センター技術主任）



☆3.11「ちきゅう」は八戸港で

- ・丁度ヘリポートで見学中の小学生達、揺れに気づくや中央に集まって安全確保、訓練の成果！
- ・「ちきゅう」は大きな損傷を回避でき、直ちに調査に向かった。



《参加者の感想》

- ・「ちきゅう」の最先端の研究も私たちの防災・減災と深く結びついている。
- ・わかりやすい解説で、様々な分野での取組みも広く

☆地球深部探査船「ちきゅう」

- ・掘削能力海底下 7000 メートル！マントルや巨大地震発生帯まで掘削できる！
- ・巨大地震発生のしくみ、生命の起源、環境変動、海底資源（マンハイトレードの探査もそのひとつ）などの研究で威力！



☆「ちきゅう」から防災・減災への発信 ～ 長期孔内観測装置 ～

- ・2013年2月東南海地震想定震源域・紀伊半島沖熊野灘海底下に設置、地震・津波観測監視システムに接続。今後装置の設置拡大が計画されている。
- ・歪・温度・圧力・地震波等を計測するセンサーでリアルタイムに微小な地震動や地殻変動に伴う海底下の歪や温度、圧力等の変化等を観測し、巨大地震発生の研究にデータを送り続ける。
- ・緊急地震速報の改良にも貢献。

（資料：池田・伊東・田中(喜) 記録：成松)

- ◆ 日 時: 2013 年 8 月 23 日(金) 18:00-19:30 場 所: 神奈川大学 1 号館 301 号室
- ◆ 主 催: 防災塾・だるま 司 会: 浦辺さん
- ◆ 談義の会参加者: 会員 27 名 一般 10 名 計 37 名 (敬称略)
- (会員) 池田、伊東、荏本、小原、高松、中島、中村(俊)、山口(章)、山本(俊)、白田、田中(喜)、中村(茂)、片山、成松、田中(晃)、玉井、樋口、加藤、山田(富)、山本(一)、鈴木、小早川、松井、福島、後藤、磯野、小林(秀)。
- (一般) 和内、丸山、堀下、小河、小野、加藤、菅原、湯浅、山崎、大谷。

I. 「防災塾・だるま」活動報告

1. 活動概況 (荏本塾長)

◇地域防災講座・防災教室への支援活動が進む中、土木学会からの「地域に根ざした防災力の向上を目的とする意識調査」企画提案、横浜市中区の地域での減災対策活動など、だるまと協力した活動提案がきている。単発で終わらない取組みが必要で、シッカリ検討したい。

2. 第 8 回実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 (運営委員会リーダー 伊東さん)

◇申込書が完成、神奈川大学HP掲載: <http://www.ku-portsquare.jp/site/course/detail/695/>

メインテーマ: 地域にいかす「防災・減災の知識・知恵」を学ぶ

期間: 10/24(木)～11/28(木) 毎週木曜日 13:30～17:00 (全 6 回) 受講費用: 5,000 円

会場: KU ポートスクエア(みなとみらいウイングタワー 14F) (第 5 回 11/21 のみ横浜市民防災センター)

◇「発災直後の行動ゲーム J-DAG」(講座第5限目テーマ)の事前研修会を行う。

9/19(木) 12:00～15:00 場所: 横浜市民防災センター 無料 参加希望: 伊東さんまで

◇講座参加者募集・準備・運営でご協力をお願いする。積極的に役割を担っていただきたい。

3. 関東大震災 90 周年 (池田さん)

◇開港資料館見学会: 9/25(水) 10:00～11:00 講師: 開港資料館研究員 吉田律人氏

場所: 開港資料館(みなとみらい線日本大通り駅 2 分) 先着 10 名 参加希望: 池田さんまで

II. 定例会報告・活動情報 (定例会司会: 片山さん)

(定例会参加者: 会員24名 一般4名 計28名)

定例会論議報告 (片山さん)

～テーマ「シェイクアウト訓練について」～

- ・いざの時の行動は、居る場所によって違う。(建物内・外、鉄道やバスに乗っている時、運転中、海岸近く・・・) 普段からよく考えておかなければ、とっさに最適な行動はできない。また、小さな地震でも、その場に適した安全行動をとることを習慣化することが大切。
- ・「ドロップ・カバー・ホールドオン」も、それしかないとは固定的にとらえないこと。各自の日頃の行動範囲に照らして、それぞれの場所でのわが身を守る最適行動を良く考えて「シェイクアウト」訓練に参加しよう。



「かながわシェイクアウト」9/5(木) 11:00

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f480078/>

地域デビュー講座 六角橋ケアフラザ (片山さん)

◆企画案がまとまり準備に入った。

全 4 回: 10/15(火)・22(火)・31(木)・11/5(火)

(各回 13:30～16:00)

講義 (第 1 回～第 3 回) J-DAG ゲーム (第 4 回)

◆だるまから、講師(荏本塾長・片山・森・山田(美)・加藤・田中(喜)さん)と運営面で全面支援。

III. 防災まちづくり談義（司会：浦辺さん）

話題：「地域密着で～消防団員確保対策成功事例～」

（横浜市西消防団の取り組み）

講師：横浜市西消防署 丸山正美氏 堀下清美氏

★災害時に直ちに動けるのは地域をよく知る消防団

火災や大規模災害の時、まず現場に駆けつけ、その地域の経験を活かした消火・救助活動を行う。

★西消防団は1本部・3分団230人 充足率100%！

女性団員や若い人材も続々入団、ウェディングも。

※横浜市全体：90%を下回り減少傾向。

団員確保が緊急課題。

★女性団員が頑張る活躍する西消防団

現在76名の女性団員が、地域防災活動、応急手当の普及など地域に溶け込んだ活動を展開中。

女性分団長も男女混合分団を引っ張る。



西消防団とともに歩んできた丸山さん：

「今、西消防団が全国から注目されている」とスライドを使いながらダイナミックな取組みを熱く語っていただいた。



地域密着の活動を紹介する堀下さん：

「地域で真っ先に動くのは消防団、地域の細かいところまで知っている。」

《参加者感想》

- ・災害時に直ちに動けるのは消防団。
3.11で消防団が果たした大きな役割と犠牲
・・・記憶を風化させてはならない！
※司会の浦辺さん（だるま会員）
3.11で被災し横浜へ、何か地区のためにと西消防団に入団した。
- ・団員主導の訓練、地域密着の活動やイベント、災害出場経験の積重ね等に、西消防団の団結と活性化の推進力を感じた。（他区消防団からの参加者と有意義な意見交換が行われた。）

（資料：池田・伊東・浦辺・田中（喜） 記録：成松）

◆ 日 時: 2013年9月27日(金) 18:00-19:30 場 所: 神奈川大学 23号館 206号室

◆ 主 催: 防災塾・だるま 司 会: 山田(美)さん

◆ 談義の会参加者: 会員 29名 一般 5名 計 34名 (敬称略)

(会員) 池田、伊東、植山、小原、菊地、森、山口(章)、田中(喜)、山田(美)、長沼、片山、成松、大西、佐藤(毅)、宮川、玉井、樋口、高江洲、佐々木、山田(富)、鈴木、石井(邦)、松井、北原、河野、福島、磯野、小林(英)、小嶋。

(一般) 中山、湯浅、濱野、加山、下村。

I. 「防災塾・だるま」活動報告

1. 談義の会第100回を迎えて(池田副塾長)

◇神奈川大学講座受講生が2005年に「地域防災まちづくり談義を楽しむ会」として立上げた「防災まちづくり談義の会」が第100回目を迎え、防災塾・だるま8周年記念講演会を行う。だるま会員も100名を超えた。

今後も地域の防災・減災につながるテーマを取上げ、共に学び・発信する場としていきたい。

◇「防災塾・だるま談義の会100回のあゆみ」も作成中。(リーダー: 佐藤(忠)さん)

2. 第8回「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」(運営委員会リーダー: 伊東さん)

◇いよいよ10/24(木)からスタートする。受講生最終募集中。(定員: 50名 締切: 10/10)

神奈川大学HP掲載: <http://www.ku-portsquare.jp/site/course/detail/695/>

メインテーマ: 地域にいかす「防災・減災の知識・知恵」を学ぶ-2013

期間: 10/24(木)～11/28(木) 毎週木曜日 13:30～17:00 (全6回) 受講費用: 5,000円

会場: KUポートスクエア(みなとみらいウインズタワー14F) (第5回11/21のみ横浜市民防災センター)

◇第5限目で9/24神奈川新聞でトップ掲載された「発災直後の行動ゲームJ-DAG」訓練を行う。

3. 荏本塾長・黒岩県知事テレビ対談(池田さん・山口(章)さん)

◇減災をテーマにテレビ神奈川「かながわいのちボラトリ」で9/1放映。

◇後半では防災塾・だるまの紹介、山口(章)さん(緑区連合会長・だるま会員)インタビューも登場。



II. 定例会報告・活動情報(定例会司会: 山田(美)さん)

(定例会参加者: 会員 23名 一般 0名 計23名)

定例会論議「震災から学ぶ」(山田(美)さん)

◆今も数多くの関東大震災の史跡が横浜に残る。

「関東大震災を歩く」(9月 山下・山手と南区の2コース)で史跡を巡り、震災被害や復興の説明を聞いて、「震災から学ぶ」大切さを改めて実感。(池田さん・玉井さん)

◆震災から学び、地域の防災・減災にいかしていくこと。
・・・語り部の伝承も重要なテーマ。

9/2戸塚中学校総合防災訓練参加(宮川さん)

◆校庭への避難訓練に保護者への引渡訓練が加わる新しい取り組みが実施された。反省会では今後の課題について意見交換、什器転倒防止の必要性などをアドバイスした。



(9/24 神奈川新聞)



J-DAG 訓練が神奈川新聞(9/24)トップ掲載(片山さん)

◆防災塾・だるま主催の「発災直後の行動ゲームJ-DAG」訓練(9/19 約20名 横浜市民防災センター)が神奈川新聞9/24トップページで「横浜発 減災ゲーム」(考案: 片山さん 監修: 防災塾・だるま)として報道された。地域・学校から反響が来ている。

南区災ボウ運営委員研修会(白田さん)

◆HUG(避難所運営ゲーム)を実施(9/12、参加19名 講師: 白田さん)、避難所運営を様々な視点から考え話し合う研修会となった。

III. 8周年記念講演会&第100回談義の会（司会：山田（美）さん）

テーマ：「関東大震災直後の小学校～横浜の事例から～」

講師：横浜市史資料室 調査研究員 松本 洋幸 氏

《震災直後 小学校と教職員の行動・貢献》

★地域コミュニティの中核として幅広い役割を担った：

- －教職員たちによる調査、記録。
- －応急対応、傷病者の手当、井戸の消毒など。
- －救援物資の運搬分配、道路整理、夜警、民心対応。

★避難所として：約 20 校 避難者・罹災者 約 6 千人。

★授業再開は順次、柔軟に：

- －通学区域に限定せず、再開が可能な丘陵部の学校から順次児童を吸収。（東京：10 月初旬一斉再開）
- －当初は野外授業・天幕授業・バラック校舎も。
- －児童の精神ケアや給食の重要性に着目した対応。

★震災の被害を物語る記念品の収集にも努めた。



・震災で大きな被害があった

小学校の現場で、教職員は、

震災直後から、地域の中核として幅広い役割を担い、行動した。

・そのカギは、教職員たち

《横浜市内の公立小学校は甚大な被害を蒙った》

- ・36 校のうち 19 校全焼・15 校倒潰・大破。
- ・教室数 799 室 使用可能は 39 室のみ。
- ・教職員 997 名 15 名死亡。
- ・児童 54,962 名 903 名死亡（1.6%）。

《参加者感想》

- ・震災直後の混乱の中、柔軟に創意工夫で行動し、地域に貢献した小学校と教職員から、減災と復興の原点を学んだ。
- ・90 年前の震災から学ぶことが如何に多いかを再認識した。地域の取組みにいかしていきたい。



（資料：池田・伊東・浦辺・田中（喜） 記録：成松・佐藤（忠））